

恒久平和への誓いを新たに
殉公者追悼式が執り行われる

6月15日、戦没者を慰霊し恒久平和への誓いを新たに「殉公者追悼式」が、津別町平和の碑広場で執り行われました。
黙禱、国歌斉唱の後、佐藤多一町長が式辞を述べ、「平和は世界共通の願いですが、国家や宗教の違いなどからテロや紛争が後を絶ちません。大戦から学んだ経験を生かし、平和に寄与するため努力をしなければなりません」と、紛争終結を訴えました。
北海道知事（代読）、鹿中順一町議会議長による慰霊の辞に続いて、戦没者遺族や来賓、関係者などが平和の碑に献花を行い、平和と鎮魂の祈りを捧げました。



来賓 各地区会員など240名が出席
津別ライオンズクラブ50周年記念式典

5月25日、津別ライオンズクラブ（樺功会長、会員34名）の50周年記念式典が、町民会館で開催されました。同クラブは昭和39年に国内632番目のライオンズクラブとして誕生して以来、半世紀にわたって地域に根差した奉仕活動や寄付活動を行ってきました。
式典では、チャーターメンバー4人への感謝状贈呈や、過去10年間の歴代会長への表彰などが行われ、また、50周年記念アクティビティとして、21世紀の森整備事業のために町に250万円の助成金が寄付されました。



会場には、来賓の町長をはじめ近隣のクラブ、遠くは船橋ポートライオンズクラブなどから240名が集まり、50年という歴史の重みをかみしめていました。

2014 くりん草フェスティバル開催
美しい花と多彩な催しを満喫

「2014 くりん草フェスティバル」が、6月14日から29日までの土・日曜日、ノノの森（上里町民の森自然公園の愛称）とランブの宿・森つべつで開催されました。
クリンソウが群生する散策路周辺では、家族連れなどが見事に咲きそろった花を眺めながらゆったりとした時間を過ごしていました。また、期間中は森林セラピー体験や森林ヨガ体験、ソリーイングなども行われ、参加者は森の持つ癒しの力を体感しました。
ゲストミュージシャンや、津別の音楽愛好サークルなどが日替わりで演奏する「森の音楽会」も連日行われ、会場は町内外から訪れた多くの人で賑わいました。



夫婦デュオ「二人静」の演奏



可れんに咲くクリンソウ



木の実などを使ったクラフト体験



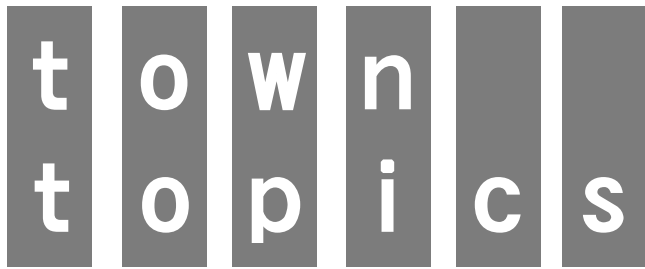
緑豊かな森の散策路

全日本ジュニアトランポリン選手権大会
津別から6選手が出場決定

第30回北海道ジュニアトランポリン競技選手権大会（5月17・18日、美深町）で好成績を収め、全日本大会への切符を手にした津別トランポリンクラブの選手たちが、5月29日、佐藤町長に出席報告をしました。



同大会に津別から出場した小中学生11名のうち石井柊くん（津中3年）、笹本梨真さん（津中2年）、石井葵良さん（津中2年）、乃村朋紀花さん（津小5年）、兼平航志くん（津小5年）、加藤瑠菜さん（津小5年）の6名が、7月末から札幌市で開催される第42回全日本ジュニアトランポリン選手権大会の出場権を獲得しました。
町長の激励の言葉に、選手たちは大会での健闘を誓っていました。



まちのわだい

子どもたちの安全な通行を願う
建設産業団体から交通安全旗80枚が寄贈される

5月19日、建設産業交通安全推進網走地方本部美幌支部（野口謙一支部長代理）から教育委員会に、交通安全旗80枚が寄贈されました。
赤い文字で「交通安全」と染め抜き、エゾ鹿のイラストをあしらったこの旗は、町内小中学校の周辺道路沿いを中心に掲げられ、事故防止の注意喚起に役立てられます。運転者も歩行者も、交通ルールを守って事故防止に努めましょう。



油漏れ事故に素早く対応
危安協が油吸着マットを寄贈

6月12日、美幌地区危険物安全協会（大西均会長）から津別消防署に、油吸着マット100枚が寄贈されました。
油吸着マットは路面等に漏れ出した油を吸い取って処理するもので、「危険物安全週間」期間中における同協会の事業の一環として、危険物災害対策に役立てることを目的に寄贈しています。



舛川実副会長から目録を受領した江草英利署長は、「町民の安全のために活かしたいと思います」とお礼を述べました。

地域おこし協力隊の
「きんぎょ日記」

地域おこし協力隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

自分で作る
という贅沢



榎山 知弘

森や川を歩いたり、野菜を作ったり、津別の色々を楽しむのが目標。あいおい物産館でそば打ちをしています。

裏に作った畑では、近所の方に手伝っていただいて建てたビニールハウスのおかげもあって、順調にトマトやキュウリが育っています。ちなみにこの野菜たち、自家採種で種から苗を育てたもの。

都市部で暮らしていると周りにはモノがあふれ、お金ですぐに買えてしまう。だから自分で何かを作る、なんていう意識にはなかなかありません。それに、作ろうと思っ

も場所や材料を探すのが一苦労です。一方で、もの作りには恵まれた環境の津別。移り住んでから、色んなものを自分で作るようになりました。お金ではなくて時間と手間をかけて、思いを込めてモノを作る。これ、都会から見ると、とっても贅沢なことなのです。

今度は何を作ろうか？ トマトの生長を眺めながら、そんな贅沢を楽しむ今日この頃です。

